

花曆封ト一文初編中ノ巻

東都

菴月亭有人著

第三回

焦て本牧の四造と見せり 板コレ搦三身今較の案物

皆ナでさすま 搦へイ四冊おまきま 七の亭冊ハ然

殊ツて居まぬ 然親又ツおまきま 板もぬ ぬおん

ごさの林とくま 然殊ツてみ 且造はツて異乃とめ

以不ア 是極るが ぬおん ぬおん ぬおん

おまご親や 伯の身せりつて大膳子國女相ふ久難切ツ人勤

少時とち外ごのを書做が漸く 狂威人先為命幸因の為

産室穿と換ツこのをよき者多けれへち成まへを替り目以

又冊宛写物がする申うれと。お色狂者愛ち狂住けとと

己才利ごの仕しまご強母とあまぶらりん云といざんまの

か云の急が氣の多む方換すりやア書世改ゆい通うと殿標

以り下つる切らるゑとせまごをまツんそやト云取ぶるあ

おまごの親が初しんおまごのをおしゆたごく假り次大伴

男おとこのつゝおおとこ控かまへししれれのの唯ただ人ひとごごららおおううまますすままのの嫌きら優よしううららんん御ご

後あとののふふせせ之之教おぼええ三さん年ねんのの權ごん十じゅう行ぎょうごごへへああるるままのの母ははををああららししめめたたままししたた

中なかへへああるるハハ勢せいトト考かうのの浮うのの亦また市いち祿りくのの河か苗めいのの竹たけ撫な交あ交あててああけけれれ

ハハ雅みやびごごううううトト 兼かみトト七しち 交あ交あトトくくららうう中なかのの人ひとががああるる流なが

他た人ひとのの交あ交あままととをを以もつてて折ひつつ人ひと居ゐれれどどもも今いま世よににああららすすううらら交あ交あとと折ひ

おおのの母ははとと交あ交あんんもも由よし何なに率りつ也なりししととなならられれたたととああららししたたトト 兼かみトト七しち 交あ交あトトくくららうう中なかのの人ひとががああるる流なが

交あ交あままのの三さん月げつのの梅うめ若わか塚つかののつつくく養やしやうののハハ揚やう花はなのの後あとのの竹たけ遠とほしし

交あ交あままのの三さん月げつのの梅うめ若わか塚つかののつつくく養やしやうののハハ揚やう花はなのの後あとのの竹たけ遠とほしし

あるけつりつろあともあり

拙

ナニ

その

後の

替へ

ござる

お事のり候へるごの拙の筆がろくろく

持しませぬ為候がらう

後之誦いれられんは持して申され候はし

後之誦いれられんは持して申され候はし

お礼と申して下さるは

世に換るごはらうこと思ひ

給仕お出し候へるに

お事お断然候事と

これ あり とも

こむ

こむ

こむ

こむ

こむ

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

ま ちんがく 橋 是の赤坊がけを 所難於今此身方た

大橋 不義いづづくと致すまを 収 耳 喰 隙を致すさんま 橋

三身と足 地中流がら 笑ッん ちんぐくと 辰 写 一 危りん 起る

く か 様 く と 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

九 出 六 十 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

取 コレ 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

コレ 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

コレ 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

コレ 存 ころまを ば 様 へ ヲ ヲ ト 返 回 く 様 異 極 百 年

を極あげりつたさき極人々考てうん打へお綾へ想とあけ

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

あぐさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな ちいさな

世の女使ひひま火鉢ひまあんなあんな火の用ひまななららいいららぬぬのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

くくききつつおおららししととままああららいいとと思おもややアア焼あのの中ちゆうににししいい茶あのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

ああららいいととああをを能のうままつつけけたたままややままいいつつ終おひおおもも茶あのの火ひをを由ゆ

あつこのと忽と体いあい流あ生ら極さととは極えるとを致しんとまのりの心んじじり

殊まくと極え身んり 勿なかし時じ々々愈い々々ととうけくいづづのの字じもも口くずず也や

まのせぬ放は着し殿と柳り中ち存ぞ公く致し克くのの由ゆ生し一いおの義ぎののららちちとと様やう

ままぐぐななほほししんんトト平へい々々々々甘あんん智ちああくくれれんん收しゅう張ちやう流りゅう々々とと多た々々々々

アアももややアアググののああんんごごとと一い若わ殿と様やうとと大だい本ほん以いままるるのの由ゆおお義ぎののららちちとと

とと成なるややととののつつくくおお義ぎががココレレいいらら手て糸いとがが強ちやうししんんのの橋はし三さん羽うがが度た一い

白はく状じやうんん仕し務む々々々々ととららせせ持ぢりりとと致しぬぬのの心しんののああららすすままととああんん

ままるる痛いためめをを志しままいいららちちにに疲つかれれのの心しん持ぢ合あれれとと云いふふんんちちままいいをを



おあや

女中の夢
山や心
秀

おのゝ



後^い 若^に 殿^の 禄^を あんと 後^の 徒^を うづ ^{かん} んど ませぬが 産^を 執^る を 殺^す い

えい ^{かぎ} じざり ^{かぎ} ません 牧^り まづ ウス ^{かぎ} 隈^し だん ^{かぎ} を ^{かぎ} くら ^{かぎ} たり

ま ^{かぎ} ず ^{かぎ} へ 勢^し 一^い へん ^{かぎ} へ ^{かぎ} せると ^{かぎ} かも ^{かぎ} 朱^の の ^{かぎ} 昭^の 石^の ト ^{かぎ} の ^{かぎ} あ ^{かぎ} る ^{かぎ} を ^{かぎ} 峰^の 沈^た 沈^た

禮^と せ ^{かぎ} ぬ ^{かぎ} よ ^{かぎ} せ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 無^の 斬^や か ^{かぎ} 後^の せ ^{かぎ} とい ^{かぎ} ま ^{かぎ} し ^{かぎ} め ^{かぎ} の ^{かぎ} 椽^の の ^{かぎ} 拍^の お ^{かぎ} 曲^の ひ ^{かぎ} の ^{かぎ} け ^{かぎ} へ

茶^碗 ^{かぎ} お ^{かぎ} 水^を ^{かぎ} 汲^せ ^{かぎ} け ^{かぎ} ね ^{かぎ} 後^の が ^{かぎ} 取^け 牧^り ^{かぎ} サ ^{かぎ} ナ ^{かぎ} 若^し ^{かぎ} い ^{かぎ} の ^{かぎ} 道^道

区^を ^{かぎ} 下^へ ^{かぎ} 止^る ^{かぎ} り ^{かぎ} へ ^{かぎ} 志 ^{かぎ} せ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 十 ^{かぎ} 後^後 ^{かぎ} ね ^{かぎ} と ^{かぎ} へ ^{かぎ} り ^{かぎ} の ^{かぎ} 舟^を ^{かぎ} 折 ^{かぎ} 艦^中 ^{かぎ} 走^走

中^に ^{かぎ} へ ^{かぎ} 不^の 義^の の ^{かぎ} じ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 差 ^{かぎ} へ ^{かぎ} じ ^{かぎ} ざ ^{かぎ} り ^{かぎ} ま ^{かぎ} せ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 何 ^{かぎ} 卒^を ^{かぎ} 完 ^{かぎ} 止 ^{かぎ} 堪 ^{かぎ} 忍 ^{かぎ} ぶ

方^が ^{かぎ} 旅^ツ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 下^へ ^{かぎ} 止^る ^{かぎ} ト ^{かぎ} 方^を ^{かぎ} せ ^{かぎ} る ^{かぎ} こ ^{かぎ} せ ^{かぎ} へ ^{かぎ} 徒^に ^{かぎ} ぬ ^{かぎ} れ ^{かぎ} ど ^{かぎ} か ^{かぎ} 牧^り ^{かぎ} へ ^{かぎ} 今 ^{かぎ} 耳 ^{かぎ}

以うせ風あや之の由よ葉は磯いその水みづををぐぐみみがが後のちがが報あや
（次つぎかかくれくればば唯ただ之のみ）

多おほききささああるる見みおおははににあありりととあありり此こゝににささかかりり又またささああるる方かた

ああくく消けゆゆ入いれれきき為なりり何なにれれととああるるとといいひひててははあありりののああれれ

とと白しろ雲うみををややとと分わりりああるる後のち者ものををああららぬぬ事ことのの由よににははああららぬぬををいいふふ

ぬぬをを後のちににああららぬぬ事ことのの由よににははああららぬぬををいいふふ

ととぬぬすすんんどどううとと後のちににああららぬぬ事ことのの由よににははああららぬぬををいいふふ

有あるるとといいふふ人ひとのの恩おんににああららぬぬ事ことのの由よににははああららぬぬををいいふふ

くくののああららぬぬ事ことのの由よににははああららぬぬををいいふふ

されればやアいまのつ人ままいまの自れじがいの遠ま由はぬうさぬと結ぶ事
由の道うを巻の指本にくじのけ武人うあまんはく面見をす
其のとあらしまいる事ありゆえに一人に終ふ已が一と言
又久し夜のときに

第四回

いとこともとも人あまさに後に我身のあらづゆどももらる目おうと六洞あらずと不
とまぞのかさといふ事先園大河がとの系へ見んのとあらずる後秋ある處く後に後に後
かんどうかいうめやきやきらんべき本の武丁目ある八百卷スまあらづがびとられ後名を由たとと

海ありん今年二八の富士の肩へおれぬとめらく香しく

縁の糸は松竹と光びへ丹花の唇赤らして具の糸を潤つる

さればは遠の程男木仲人とのんをある者日以成入々と

ひかをとあらしひと様はそと忌場ひの尻ふあらしんとそとのそ

促さへ止ざれは久を求む主婦も困り果てまつり以てすす

且怒れしとつ失見おせむと入板のあらしさるのそを終り

病ひこあうけむへ主婦のりのへかどろ尻積ひ中女のお板を

をばけんスコレ板やま板をよんぶらおんもあしがあつんめ

通つアノか七娘入盛おあんどや母う。漸ともすれバ危に

通つアノか七娘入盛おあんどや母う。漸ともすれバ危に

しむつけ

あつらひの世おあつらひのト長じい貴えんうう。あつらひのま

いり

いけん

ら

いま

そ

まて

こんと

よろん獲く。美見をさつたせ下おげくの果おん今愛乃

ひきうとこけん

むすめ

いのち

きん

病氣掛勢のふい娘おれどごう由命いんう入られぬ節お後

わが

しん

えん

かま

あま

いの

んがけひの通つ且おちうん由ねやん尼はじん母るまの女おん

ツメ

いよう

しん

しん

あつらひと女房うりあつらひ女房トハりあわのくか七由年以非

あま

いと

あ

わが

ま

あま

以男おん人でもあつらひてりや放ひう叶ハまの尼おあつらひといお

あま

あま

あま

あま

あつらひ娘おの一果氣おあひ措くのぞああるまのうト吾候由

あま

あま

あま

あま

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

あつていんじうまさうろた振とも打酌ん吾儕も此世をさるる

此のぬりやうがふん月が来るこのわ九極を森んじふ入ふか登一

不吉とごさう舞をさうとふ気とへ引とてこ全はたしとん

いつもの極ふ遊羽極や秋かろれども由教を尋せうそ一扱追が

同ト極ふ秋かろこの遊羽極のトは極を事おひたてあひ

遠どのの極ふは極むに死してあ中まへの程本を若者まの照花

いさううはふ使つこの時ハ事目うら及上極ふの由極おても大然

かんを名通る危法所とあるつものろ吾敵ハ佛の佛守つみ

⑤一絶めしふ一採とらう七ばしんかふ色とてあいの席下が

わつたう親しく喜ぶが聲をなまませぬゆゑにねむり

れ縁由とが茶うらに置えつてあられ救へまゝの志とゆゑに

ぢまたうらぐ何系の國お十六や十七ぐゆゑををあるの危に成

のと云仁があらう来せう来一帝と親御が不孝と申さる力の

家なくを扱ふ中と作を以精出しく治業を右あう一由ゆ

果しく御本取控しく強智利さるるを御持と成つて御孫の親を

此をせあるさるるびく人ゆあるゆゑに御存め七五を御扱ふを

てあいの危なきらるる御出しく業を香とよめあるか業ゆ香

わつたう親しく喜ぶが聲をなまませぬゆゑにねむり

このゆゑに

ことと どこ なま あま

いふこゝ ごいふちごうせうまんさふ バカ ちう せう

もう まんみと おつち せいの かんま か いち ち

えや ご あん よ あ あ あ あ

あ あ あ あ あ あ あ あ

あま せい ご あ あ あ あ

あ あ あ あ あ あ あ あ

いさよきこと それ これ うらやま いふらうき いふらうき

抛成事にていあひ其由尋く由急がわりのや水念ぶくは其後の

心振を吸つてけいむくきとぞもまんさくえんちもわくまうへ

志あふぐれかろと構二弁ハ端然あましくわもらわお七摺一今

以志ぞゆぬ事と表の由其実中く志れハ致ませぬと親之

みの成く考る事と私方一浮名がとまありんハ父上極のて外言

義和赤家の底のつくとがまいつらもりゆは世ぬまお能急急胸

た按敷一七吉おき勢このうどつせ精真女と脱アとい一不以

あうまいうら。無うらあいのサ。そんまうあんどぬ者然と時合

ひとくさるん

うのえん

まことろいひまや

あん

そろうやアアと極の外皮がらじ

ふしつ

あつえん

アアアアとさるんれ

外皮が皮とりのね

こけ

まじつ

あつ

まじつ

アアアアとさるんれ

とれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

アアアアとさるんれ

るありかこころとよきそのみ業本さんみせらりしついのみの心で

さうりませらりサアを心と成ひませらりてはれを七ももえあを成を

ゆいけとこへをびひえめと一はれはれはれ場の字に渡りあされ

吾儂は梅の縁へふ来宿としく勝る梅を向ふへ渡雷つもの

弟心赤ト心あてがししらふか目赤がり

たふひあてふはれと心はれ集ありのたろ下鼻鼻と成

まがらふらつと入来る子頼の云た心「さふアさ子ぶヨびのうら

しア子三「障子の外心びんぬきまはれ梅の集はし一を明

ありひら

いせ

そのあとしら

いじ

しち

ネ

らめこらさる

まあり

くらまぢり

むこ

こころうりあつて

まゝ

いんけんか杖の類とあらり

心あて

か

弟心赤ト

いんけんか杖の類とあらり

出巻がししらふか目赤がり

たふひあてふはれと心はれ集ありのたろ下鼻鼻と成

いんけんか杖の類とあらり

出巻がししらふか目赤がり

まがらふらつと入来る子頼の云た心「さふアさ子ぶヨびのうら

まがらふらつと入来る子頼の云た心「さふアさ子ぶヨびのうら

しア子三

障子の外心びんぬきまはれ梅の集はし一を明



お七

月あそびの
まはるる



春の
あそび

中儀ハハニニカクシキ錦画ノミズノ先氏

心ノ次第ニノ白井権八ノモミキク及ガトトハハノミズノ

おつらうがせしをきしお破の流よまやしきとあひてう角を

トむうの君もあまの心掛極よ此もれとく候は先帝の君

殿も並木の名曲る追振返りて候はう角掛極

アッ若殿よ多連といトも何あうが扱友と武人どまのい

若殿と角ケ若と鐘大較心探てあるさき身ううナア掛極ト

己けあれたとてとらふ多々あくるわしとあれたとた

さればおれはいとどおんあほしたやせんねとさみぐに
すな と く 丸

コウくくふわうらに物終るまは事すまう人多く
丸 まじう こちき あや きう べ へ し あき

入るべぬおれおどろく身と為うらふさうと
い ま 丸 え た く か と く

スコレ想はて方おも整用があらぬに
ス コ レ 想 は て 方 おも 整 用 が あら ぬ に

顔の美艶由よかん何より目出度式
顔 の 美 艶 由 よ かん 何 より 目 出 度 式

おあうませう澤川極の言葉が相
お あ う ま せ う 澤 川 極 の 言葉 が 相

まど何れあるう整るやア三たに
ま ど 何 れ ある う 整 る や ア 三 た に

香しくくくや七モ二部さん
香 し く く く や 七 モ 二 部 さん

かうく教多々^{あまのこ}あまのこを^{いふ}合せ^りて^{あま}術^{あまのこ}に^{あま}按^{あまのこ}て^{あま}久^{あまのこ}く^{あまのこ}を^{あまのこ}清^{あまのこ}く^{あまのこ}

あつろく^{あまのこ}又^{あまのこ}正^{あまのこ}利^{あまのこ}之^{あまのこ}方^{あまのこ}を^{あまのこ}時^{あまのこ}に^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}為^{あまのこ}る^{あまのこ}は^{あまのこ}

依^{あまのこ}後^{あまのこ}小^{あまのこ}教^{あまのこ}と^{あまのこ}武^{あまのこ}人^{あまのこ}之^{あまのこ}禪^{あまのこ}を^{あまのこ}教^{あまのこ}て^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}との^{あまのこ}あ^{あまのこ}る^{あまのこ}は^{あまのこ}多^{あまのこ}く^{あまのこ}す^{あまのこ}の^{あまのこ}

由^{あまのこ}衆^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}が^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}ら^{あまのこ}る^{あまのこ}が^{あまのこ}親^{あまのこ}と^{あまのこ}教^{あまのこ}て^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}

實^{あまのこ}に^{あまのこ}何^{あまのこ}ん^{あまのこ}が^{あまのこ}あ^{あまのこ}る^{あまのこ}入^{あまのこ}担^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}し^{あまのこ}身^{あまのこ}が^{あまのこ}ま^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}

か^{あまのこ}衆^{あまのこ}が^{あまのこ}む^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}教^{あまのこ}て^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}

居^{あまのこ}る^{あまのこ}との^{あまのこ}あ^{あまのこ}る^{あまのこ}あ^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}教^{あまのこ}て^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}

使^{あまのこ}次^{あまのこ}身^{あまのこ}止^{あまのこ}於^{あまのこ}ち^{あまのこ}之^{あまのこ}が^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}教^{あまのこ}て^{あまのこ}居^{あまのこ}る^{あまのこ}と^{あまのこ}思^{あまのこ}つ^{あまのこ}れ^{あまのこ}は^{あまのこ}衆^{あまのこ}ト^{あまのこ}を^{あまのこ}

